

授業概要

現行の中学校学習指導要領を土台として、国語科教育の在り方も改善される。新たに取り入れられた「話すこと・聞くこと」の中での話し合う力の育成、伝統的な言語文化として古典に一層親しむ力の育成が強化され、教科教育法としても改善が求められている。

小学校6年間の積み上げの上に中学校での基礎的・基本的な内容の確実な習得を目指し、各領域の指導事項を具体的な観点から指導の在り方を構築する授業を展開する。

授業では、より具体的な内容で実践的なレベルでの取り組みを多様化して、実の場として位置づくように参加型の授業を行う。さらに、情報通信技術の導入を踏まえた授業設計の方法についても指導する。

授業計画

第 1 回	中学校入門期の指導法・詩教材における教材分析法の基礎基本
第 2 回	「読むこと」に関する学習指導・文学教材に関する教材分析と授業設計
第 3 回	「読むこと」に関する学習指導・説明文教材に関する教材分析と授業設計
第 4 回	「読むこと」に関する学習指導・古文教材に関する教材分析と授業設計・ICT の活用
第 5 回	「読むこと」に関する学習指導・漢文教材に関する教材分析と授業設計・ICT の活用
第 6 回	学習指導案の書き方・模擬授業計画・教材文の読み込み・分析の交流
第 7 回	「書くこと」に関する学習指導・書くことの基本 記述前指導の重要性
第 8 回	「話すこと、聞くこと」に関する学習指導・独話力を高める交流場面の導入
第 9 回	中学校国語科模擬授業実践(1)・模擬授業実践・授業に対する意見交流と授業の見方、評価
第 10 回	中学校国語科模擬授業実践(2)・模擬授業実践・授業に対する意見交流と授業の見方、評価
第 11 回	中学校国語科模擬授業実践(3)・模擬授業実践・授業に対する意見交流と授業の見方、評価
第 12 回	中学校国語科模擬授業実践(4)・模擬授業実践・授業に対する意見交流と授業の見方、評価
第 13 回	中学校国語科模擬授業実践(5)・模擬授業実践・授業に対する意見交流と授業の見方、評価
第 14 回	中学校国語科模擬授業実践(6)・模擬授業実践・授業に対する意見交流と授業の見方、評価
第 15 回	国語科教育法 I を振り返る・各領域の基礎的・基本的な内容の具体的なイメージをつかませる
第 16 回	レポート提出 まとめ

到達目標

中学校学習指導要領で示されている国語科における各領域の指導事項を基本として、その具体的な内容を理解して模擬授業を実践し、学習指導案の本事案としてまとめることができる。

履修上の注意

現在の国語科の学習指導要領国語科解説書を通して理解する。中学校での指導の在り方として基礎的・基本的な内容の確実な習得を生徒に身につけさせるために、どのような授業改善が求められているかを念頭に置いて授業に臨んでほしい。「書くこと」の多様化の実践を取り入れているので日頃より文章力向上に努めてほしい。なお、履修にあたっては、2 年次前期に必ず履修を開始し、後期にⅡが履修できるようにすること。

予習・復習

- ・国語科指導書を熟読して、系統表を作成し、具体的な場面を想起して指導事項を理解すること
- ・教科書などを読み、新たな教材等に関心をもつこと
- ・ノート整理をして復習に役立てること

評価方法

授業内での学習活動（30%）及び、授業内の提出物および模擬授業学習指導案の作成（40%）、授業の達成目標の達成度を課題レポート（30%）によって評価する。

テキスト

- ・教科書名：『中学校学習指導要領解説 国語編』（文部科学省）
- ・著者名：
- ・出版社名：東洋館出版社
- ・出版年（ISBN）：978-4-491-03470-6